

連載コラム



みずき野と
その周辺の
植物と昆虫

第70回

キク科植物の花(1)

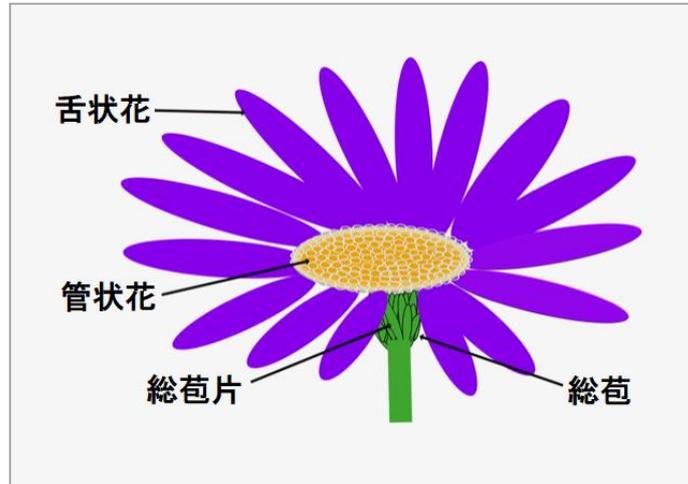
とうか 頭花の基本構造と あか タンポポ亜科の植物について



もとよし ふさお
本吉 総男

2023年4月

キク科植物は茎または枝の先端に頭花（頭状花序ともいう）をつけます。頭花はひとつの花のように見えますが、実際は小さな花の集合体です。キク科植物の頭花の基本構造は、[第3回「タンポポと類似の植物たち」](#)でヒマワリの写真を使って説明しましたが、ここでは模式図によって再度説明しましょう。



キク科の花の模式図

頭花は基本的には周辺に舌状花を、内側に多数の管状花（筒状花ともいう）をもっています。舌状花は花卉のように見えますが、ひとつひとつが花なのです。管状花は名の通り管のような形の花です。頭花の下部は総苞によって囲まれています。総苞とは多数の苞葉が密に集合したもので、総苞を構成するひとつひとつの苞葉を総苞片と呼んでいます。総苞には、未熟な頭花を包んで保護し、開花後には頭花を支える役目があります。

日本に存在するキク科植物の大部分はタンポポ亜科とキク亜科とに分けられます。亜科は、科の下位カテゴリーです。タンポポ亜科は頭花が舌状花のみで構成され、管状花をもたないキク科植物です。一方、キク亜科は管状花をもっていますが、舌状花をもつものも含まれるものが含まれます。

キク科にはたいへん多くの植物が含まれます。みずき野やその周辺にも多様なキク科植物が見られます。それらについて、これから解説していこうと思いますが、全てを1回で述べることは困難なので、複数回に分けて掲載する予定です。

今回はタンポポ亜科の植物について述べますが、[第3回「タンポポと類似の野草たち」](#)の中で、みずき野周辺に見られるタンポポ亜科の植物、カントウタンポポとセイヨウタンポポ（タンポポ属）、ニガナとオオヂシバリ（ニガナ属）、コウゾリナ（コウゾリナ属）、ブタナ（エゾコウゾリナ属）、ノゲシとオニノゲシ（ノゲシ属）について述べ、また、花の様子を示す写真も載せてい

るので、これらの植物の説明は省略します。ここでは「第3回」に載せなかったシロバナタンポポ、キクニガナおよびレタスを補足的に載せることにします。

第3回 「タンポポと類似の植物たち」の補足

(1) シロバナタンポポ(タンポポ属)

ぜっしょうか
舌状花が白または淡黄色のタンポポには、シロバナタンポポのほか、関西以西に分布するキビシロタンポポ、中部地方以北に分布するウスギタンポポ、東北地方に分布するオクウスギタンポポなど数種があります。これらの頭花はよく似ていますが、総苞そうほうの形で区別できます。シロバナタンポポの外側の総苞片そうほうへんの先端に角つののようなはっきりした突起があります。他の白～淡黄色のタンポポにはこのような突起がないか、あってもごく小さくて目立ちません。



シロバナタンポポ
4月上旬 みずき野6丁目



シロバナタンポポの総苞と総苞片
総苞片の突起

シロバナタンポポは多年草で、分布域は、本州の関東以西、四国、九州の暖地で、関西では特に多く見られます。不思議なことに、この辺りでは、シロバナタンポポはみずき野町内以外の場所で見ることがありません。守谷市(当時守谷町)で1993~1997年に行われた調査の記録の中にも、シロバナタンポポの記載はありません(『もりやの自然誌』2000年 守谷町教育委員会発行)。シロバナタンポポは暖地に生える植物なので、種子がたまたま暖地からみずき野に持ち込まれた可能性があります。みずき野6丁目の歩道脇の植え込みの中には特に多く見かけます。

(2) キクニガナ(キクニガナ属)

キクニガナはヨーロッパ原産の多年草で、チコリと呼ばれるほうが多いかもしれませんが。日本には野菜として導入したものが帰化植物として各地の道ばたなどに自生しているようです。守谷でも本町地区の道ばたで咲いているのを見つけました。黄色い花が多いタンポポ^{あか}科の植物の中では珍しく青～紫色です。



キクニガナ 6月下旬 守谷市本町地区

(3) アキノノゲシとレタス(アキノノゲシ属)

アキノノゲシは第17回「秋の野の花」に載せましたが、同属のレタスと比較するため、再登場させます。アキノノゲシは越年草または一年草。高さ150センチほどの大型のキク科植物で、花期は9～10月頃です。

葉菜のレタスはアキノノゲシの^{きんえんしゅ}近縁種です。レタスには結球する、すなわち葉が重なりあって球状になる品種と、葉が結球しない品種があります。葉が結球しない品種は通称サラダナと呼んでいます。

レタスの原産地は一般には地中海から中近東とされているようですが、大久保増太郎著『日本の野菜—産地から食卓へ』(中公新書)には、「中国、インドから近東、地中海地域と考えられているが、原種に近い野生種が、カナリヤ半島から地中海沿岸を経て、中近東からシベリアまでの広い範囲に分布しており、特定しにくいようだ」と記述されています。また、レタスの栽培は非常に古い時代に始まったようで、「紀元前5世紀には、ペルシャ王の食卓に供せられたともいわれ、かなり古くから栽培されていた」とあります。また、わが国には、「奈良時代にカキチシャとして中国から伝えられた」そうです。

このカキチシャというのは、結球しないリーフレタスの仲間(つまりサラダナ?)」だそうで、奈良時代から食べられていたようです([日本食品名産図鑑](#))。その後、江戸時代以降は結球レタスが盛んに食べられるようになったようです。

サラダナにどんな花が咲くか興味があったので、苗を庭で育ててみました。花はアキノノゲシに多少似ているような気がしました。^{ぜつじょうか}舌状花はアキノノゲシより多数見られました。



アキノノゲシ 10月下旬 守谷市本町地区



サラダナ(レタスの品種)7月上旬 わが家の庭



都合により次回は6月に掲載します。アザミなどについて述べる予定です。